



第68回 日本生殖医学会九州支部会

会 長

詠田 由美

IVF詠田クリニック

● 第68回 日本生殖医学会九州支部会 ●

日 時：平成23年 4 月24日(日) 9:00～16:24

評 議 員 会	9:00～ 9:20
総 会	9:20～ 9:30
一般学術講演会	9:30～12:42
	13:20～16:24

会 場：エルガーラホール 7 階中ホール

福岡市中央区天神1-4-2

TEL (092)711-5017

会 長 詠田 由美

(IVF 詠田クリニック)

〒810-0001 福岡県福岡市中央区天神1丁目12-1

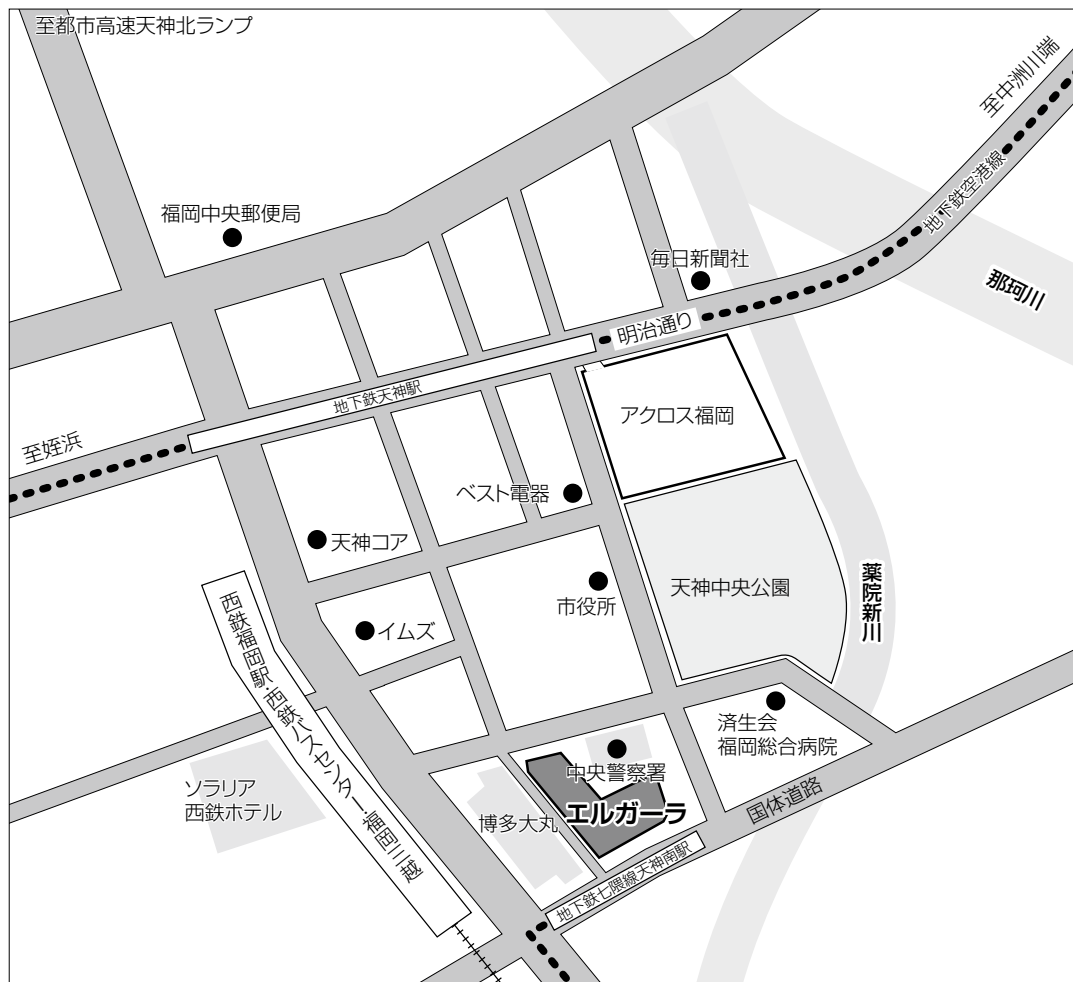
日の出福岡 6 階

TEL 092-735-6655

〈注〉

1. 参加費 3,000円
2. 発表時間は発表5分・討論3分です。時間厳守をお願いします。
3. 発表は PC パソコンによる発表のみとさせていただきます。
必ずパソコンをお持ち下さい。
4. 学会当日はこのプログラムを必ず持参してください。
5. 質問がある方は予め質問マイクの近くに待機しておいてください。

会場案内



- | | | | |
|---------------|--------|----------|------------|
| ●地下鉄空港線天神駅より | 徒歩 5 分 | ●JR博多駅より | タクシー約 10 分 |
| ●地下鉄七隈線天神南駅より | 徒歩 1 分 | ●福岡空港より | タクシー約 20 分 |
| ●西鉄福岡(天神)駅より | 徒歩 2 分 | | |
| ●天神バスセンターより | 徒歩 3 分 | | |

PROGRAM

開会の挨拶 9:30

会長 IVF 詠田クリニック 詠田 由美

第1群 [腫瘍・内膜症] 9:30～10:02

座長 済生会長崎病院 婦人科 藤下 晃

1 抗がん剤(シクロフォスファミド;CPA)投与によるマウス受精能への影響 —投与量の検討—

1)セント・ルカ産婦人科、2)高度生殖医療技術研究所

○小池 恵¹⁾、熊迫 陽子¹⁾、大津 英子¹⁾、荒木 泰行²⁾、荒木 康久²⁾、
宇津宮隆史¹⁾

2 若年発症子宮内膜癌の病態におけるプロラクチンの臨床的意義

熊本大学 大学院生命科学研究部 産科婦人科学

○齋藤 文誉、田代 浩徳、松尾 勇児、内野貴久子、岡村 佳則、本田 律生、
大場 隆、片渕 秀隆

3 当科における子宮内膜症治療の現状

福岡大学 医学部 産科婦人科

○城田 京子、中山 直美、宮本 新吾

4 子宮内膜症症例における血中 AMH(抗ミュラー管ホルモン)値の検討

蔵本ウイメンズクリニック

○榊 美緒、鈴木 さよ、吉岡 尚美、大塚未砂子、蔵本 武志

第2群 [内視鏡・手術] 10:02～10:34

座長 鹿児島大学 医学部 産科婦人科 山崎 英樹

5 卵巣手術と喫煙が血中抗ミュラー管ホルモン(AMH)値に及ぼす影響について

蔵本ウイメンズクリニック

○大塚未砂子、吉岡 尚美、榎 美緒、鈴木 さよ、村上貴美子、村上 正夫、
江頭 昭義、蔵本 武志

6 腹壁皮下組織に認めた異所性巨大筋腫の一例

鹿児島大学 医学部 産科婦人科

○築詰伸太郎、山崎 英樹、松尾 隆志、沖 利通、吉永 光裕、堂地 勉

7 子宮内視鏡による慢性子宮内膜炎の診断と治療

ALBA OKINAWA CLINIC

○寺田 陽子、佐久本哲郎、徳永 季子、徳永 義光

8 内視鏡下筋腫核出術を施行した不妊症症例の検討

済生会長崎病院 婦人科

○松本亜由美、下村 友子、松本加奈子、中山 大介、藤下 晃

第3群 [診断・検査・その他] 10:34～11:06

座長 大分大学 医学部 産科婦人科 河野 康志

9 当科を受診した不妊症新患症例における、初診後2年間での生児獲得困難なリスク因子

琉球大学医学部付属病院 産婦人科

○銘苅 桂子、安里こずえ、屋宜 千晶、青木 陽一

10 排卵誘発法選択を目的としてD3時ホルモン迅速測定の意義

1) セントマザー産婦人科医院、2) 福岡県済生会八幡総合病院

○三代さやか¹⁾、田中 温¹⁾、永吉 基¹⁾、田中威づみ¹⁾、薬師神文江¹⁾、萩原 知絵²⁾

11 自己注射におけるヒヤリ・ハット報告～重大事例を振り返って～

セント・ルカ産婦人科

○後藤 裕子、井澤 里砂、河野 絢子、越光 直子、上野 桂子、宇津宮隆史

12 「正確性」を最優先としたデータ管理体制を目指した当院の取り組み

1) セントマザー産婦人科医院、2) 福岡県済生会八幡総合病院

○中嶋 はるみ¹⁾、田中 温¹⁾、永吉 基¹⁾、田中威づみ¹⁾、金子 芳子¹⁾、萩原 知絵²⁾

第4群 [心理・看護] 11:06～11:38

座長 セント・ルカ産婦人科 上野 桂子

13 受精卵取り違い事故(2009年)前後のARTの安全性に対する患者意識の比較

1) 蔵本ウイメンズクリニック、2)九州大学大学院医学系学府医療経営・管理学講座

○村上貴美子^{1,2)}、久保島美佳¹⁾、金子 清美¹⁾、池田 美樹¹⁾、園田 敦子¹⁾、
川元 美里¹⁾、深町みどり¹⁾、蔵本 武志¹⁾、鮎澤 純子²⁾

14 不妊治療患者の性生活の現状と意識調査

セント・ルカ産婦人科

○二宮 陸、斎高 美穂、河野 絢子、関 こずえ、越光 直子、篠田多加子、
後藤 裕子、上野 桂子、宇津宮隆史

15 当院での男性不妊症治療における看護の取り組みについて

セントマザー産婦人科医院

○竹森ちはる、田中 温、永吉 基、田中威づみ、白柿ひろみ、武谷 賞子、
原田 寛子、鎌田 美帆、東 智美、嶋津 幸恵

16 胚移植不能・全胚凍結不能時の説明における胚培養士の関わり方

セント・ルカ産婦人科

○城戸 京子、小池 恵、佐藤 晶子、後藤 香里、熊迫 陽子、長木 美幸、
大津 英子、上野 桂子、宇津宮隆史

第5群 [AIH・精子・PCO] 11:38～12:10

座長 ALBA OKINAWA CLINIC 寺田 洋子

17 当院における配偶者間人工授精(AIH)の検討

松田ウイメンズクリニック

- 栗野早央理、末永めぐみ、平田 瑠美、篠原真理子、江口 明子、伊藤 正信、
松田 和洋

18 年齢別および適応別に分けた配偶者間人工授精(AIH)の検討

ソフィア愛育会 ソフィアレディースクリニック水道町

- 永野 明子、中川 誠、松下富士代、岩政 仁

19 精子数による妊娠率・流産率の比較検討

1) セントマザー産婦人科医院、2) 神戸大学大学院農学研究科動物多様性教室

- 高橋 如¹⁾、田中 温¹⁾、永吉 基¹⁾、田中威づみ¹⁾、竹本 洋一¹⁾、
赤星 孝子¹⁾、加藤 由香¹⁾、牟田口亜矢¹⁾、中嶋 美紀¹⁾、大村 奈津子¹⁾、
楠 比呂志²⁾

20 多嚢胞性卵巣症候群における血中 kisspeptin 濃度測定の意義

大分大学 医学部 産科婦人科

- 津野 晃寿、河野 康志、古川 雄一、唐木田真也、檜原 久司

第6群 [着床前診断・不育] 12:10～12:42

座長 熊本大学 大学院生命科学研究所 産科婦人科 大場 隆

21 着床前診断における Biopsy 法の比較 － aspiration 法、Extrusion 法、m-Extrusion 法－

竹内レディースクリニック附設高度生殖医療センター

○遊木 靖人、樽松 朋子、福元由美子、黒木 裕子、佐多 良章、穂満ゆかり、
竹内 一浩

22 当院における着床前診断の有用性について

1) セントマザー産婦人科医院、2) 神戸大学大学院農学研究科動物多様性教室

○竹本 洋一¹⁾、田中 温¹⁾、永吉 基¹⁾、田中威づみ¹⁾、赤星 孝子¹⁾、
加藤 由香¹⁾、牟田口亜矢¹⁾、楠 比呂志²⁾

23 不育症既往妊婦に対して低用量アスピリンおよびヘパリン療法が 有効であった2例

長崎大学 医学部 産婦人科

○城 大空、井上 統夫、平木 宏一、松脇 隆博、増崎 英明

24 子宮奇形の診断における3D 超音波の有用性についての検討

長崎大学 医学部 産婦人科

○井上 統夫、城 大空、平木 宏一、増崎 英明

第7群 [ART:凍結] 13:20～13:52

座長 福岡大学医学部 産科婦人科 城田 京子

25 凍結融解胚移植の治療成績に関する検討

琉球大学 医学部 産科婦人科

○屋宜 千晶、安里こずえ、銘苺 桂子、青木 陽一

26 単胚移植時代の胚盤胞ガラス化保存 HRT 下融解胚移植での累積妊娠率保持の取り組み

医療法人 ART 岡本ウーマンズクリニック

○秋吉 俊明、松尾 完、溝部 大和、南 志穂、福嶋 倫子、上田 泰子、
福田 裕子、山下ひとみ、山口 敦巳、岡本 純英

27 再凍結胚盤胞の有用性に関する検討

IVF 詠田クリニック

○末永 雅臣、泊 博幸、國武 克子、内村 慶子、池邊 慶子、本庄 考、
詠田 由美

28 Day7 胚盤胞を再凍結後融解胚移植して正常児を分娩した1症例

医療法人 聖命愛会 ART 女性クリニック

○小山 伸夫、横山奈穂美、中村 千夏、小牧 麻美、柴田 典子

第8群 [ART: 胚の評価] 13:52～14:24

座長 セントマザー産婦人科医院 竹本 洋一

29 受精卵振動装置を用いた胚の培養について

1) セントマザー産婦人科医院、2) 神戸大学大学院農学研究科動物多様性教室

- 本多 宏光¹⁾、田中 温¹⁾、永吉 基¹⁾、田中威づみ¹⁾、竹本 洋一¹⁾、
赤星 孝子¹⁾、牟田口亜矢¹⁾、加藤 由香¹⁾、中島 竜之¹⁾、楠 比呂志²⁾

30 conventional IVF における第2極体放出時間とその後の胚発育についての検討

1) 高木病院 不妊センター、2) 佐賀大学 医学部 産婦人科

- 山本 新吾¹⁾、山田 耕平¹⁾、西山和加子¹⁾、宮本 恵里¹⁾、塚崎あずさ¹⁾、
小林 倫子¹⁾、有馬 薫¹⁾、牧田 涼子¹⁾、佐護 中¹⁾、野見山真理¹⁾、
小島加代子¹⁾、岩坂 剛²⁾

31 早期分割胚における分割異常胚の評価

IVF 詠田クリニック

- 泊 博幸、國武 克子、内村 慶子、池邊 慶子、末永 雅臣、本庄 考、
詠田 由美

32 凍結施行前と融解後における胚盤胞の呼吸量変化の比較検討

1) セント・ルカ産婦人科、2) 高度生殖医療技術研究所、3) 山形大学大学院理工学研究科

- 熊迫 陽子^{1,3)}、後藤 香里¹⁾、小池 恵¹⁾、宇津宮隆史¹⁾、荒木 康久²⁾、
阿部 宏之³⁾

第9群 [ART: 胚移植・着床] 14:24～14:56

座長 古賀総合病院 肥後 貴史

33 当院における2年間の単一胚盤胞移植の成績

ART 女性クリニック

○小牧 麻美、柴田 典子、横山奈穂美、中村 千夏、小山 伸夫

34 二段階胚移植法による治療成績の検討

石松ウイメンズクリニック

○石松 正也、三輪 洋子、有本 恭子、藤本 麗加、杉田 美香、鹿島 光、
多賀 真、小林 未希、大山 玲美、上野 瑞枝

35 当院における SEET 法の試み

医療法人 聖命愛会 ART 女性クリニック

○横山奈穂美、柴田 典子、小牧 麻美、中村 千夏、小山 伸夫

36 遅延着床が疑われた子宮外妊娠の1例

久留米大学 医学部 産婦人科学講座

○今石 裕人、駒井 幹、三嶋すみれ、藤本 剛史、堀 大蔵、嘉村 敏治

第10群 [ART:ICSI・卵子活性化] 14:56～15:28

座長 IVF詠田クリニック 泊 博幸

37 当院における Rescue-ICSI (R-ICSI) の救済効果

医療法人 聖命愛会 ART 女性クリニック

○柴田 典子、小牧 麻美、中村 千夏、横山奈穂美、小山 伸夫

38 紡錘体可視化システム導入による ICSI 受精状況の変化

ソフィア愛育会 ソフィアレディースクリニック水道町

○松下富士代、中川 誠、永野 明子、岩政 仁

39 塩化ストロンチウムを用いた卵子活性化について

1) セントマザー産婦人科医院、2) 神戸大学大学院農学研究科動物多様性教室

○中島 竜之¹⁾、田中 温¹⁾、永吉 基¹⁾、田中威づみ¹⁾、竹本 洋一¹⁾、
赤星 孝子¹⁾、牟田口亜矢¹⁾、加藤 由香¹⁾、大村奈津子¹⁾、楠 比呂志²⁾、
中嶋 美紀¹⁾、高橋 如¹⁾

40 カルシウムイオノフォアを用いた人為的卵活性化により、受精・妊娠が
成立した ICSI 受精障害の2症例

ソフィア愛育会 ソフィアレディースクリニック水道町

○中川 誠、松下富士代、永野 明子、岩政 仁

第11群 [ART:精子] 15:28～16:00

座長 久留米大学医学部 産婦人科 今石 裕人

41 Cryotop を用いた少数精子凍結における良好な運動精子回収法の検討

蔵本ウイメンズクリニック

- 大坪 瞳、田中 啓子、松隈 豊和、江頭 昭義、永渕恵美子、友原 愛、
峰 千尋、伊福 光枝、塩田真知子、南 綾子、村上 正夫、村上貴美子、
大塚未砂子、吉岡 尚美、蔵本 武志

42 ヒアルロン酸結合性精子選別法(PICSI法)により得られた精子の形態学的評価

蔵本ウイメンズクリニック

- 伊福 光枝、江頭 昭義、永渕 恵美子、友原 愛、田中 啓子、峰 千尋、
大坪 瞳、塩田真知子、南 綾子、松隈 豊和、村上 正夫、村上貴美子、
大塚未砂子、吉岡 尚美、蔵本 武志

43 Microfluidic Sperm Sorter (MFSS) 分離精子による ICSI の検討

1) 福岡大学 医学部 産婦人科、2) IVF 詠田クリニック

- 中山 直美¹⁾、城田 京子¹⁾、宮本 新吾¹⁾、泊 博幸²⁾、内村 慶子²⁾、
国武 克子²⁾、池辺 慶子²⁾、本庄 考²⁾、詠田 由美²⁾

44 精子の早期染色体凝集と ICSI 時の紡錘体及び hCG 投与からの経過時間に関する検討

蔵本ウイメンズクリニック

- 塩田真知子、江頭 昭義、峰 千尋、南 綾子、永渕恵美子、田中 啓子、
友原 愛、大坪 瞳、伊福 光枝、松隈 豊和、村上 正夫、村上貴美子、
大塚未砂子、吉岡 尚美、蔵本 武志

第12群 [男性不妊・造精] 16:00～16:24

座長 蔵本ウイメンズクリニック 吉岡 尚美

45 電気刺激の有無と後期精子細胞の胚発生能の比較

セントマザー産婦人科医院

○田中 温、永吉 基、田中威づみ、竹本 洋一、赤星 孝子

46 組織切片と細胞浮遊液中における造精細胞の形態学的比較

1) セントマザー産婦人科医院、2) 神戸大学大学院農学部動物多様性教室

○中嶋 美紀¹⁾、田中 温¹⁾、永吉 基¹⁾、田中威づみ¹⁾、竹本 洋一¹⁾、
赤星 孝子¹⁾、加藤 由香¹⁾、大村奈津子¹⁾、高橋 如¹⁾、楠 比呂志²⁾

47 精索静脈瘤手術とクロミフェン内服により射出精子が出現した非閉塞性無精子症の1例：精巢内エコーパターンの経時的観察

1) 天神つじクリニック、2) 恵比寿つじクリニック

○成吉 昌一¹⁾、横山 裕¹⁾、中野 和馬²⁾、辻 祐治^{1,2)}

日本生殖医学会九州支部長挨拶

閉会の挨拶

会長 IVF 詠田クリニック 詠田 由美

一 般 演 題

1. 抗がん剤(シクロフォスファミド; CPA) 投与によるマウス受精能への影響 –投与量の検討–

¹セント・ルカ産婦人科

²高度生殖医療技術研究所

○小池 恵¹、熊迫 陽子¹、大津 英子¹、
荒木 泰行²、荒木 康久²、宇津宮隆史¹

【目的】 現在、がん患者が自身の未受精卵を凍結しておく計画が進められている。そこでマウスを用いた実験法を確立する目的で、抗がん剤の投与量、受精能および胚発生能を検討した。

【対象および方法】 CPA をヒト相当量に換算し 50、100、200、400、800mg を 8-9 週令の ICR 系雌マウスの腹腔内に投与した。投与後直ちに過排卵刺激を行った。得られた卵子を用いて体外受精を実施し、各投与量における胚盤胞期までの胚発生能を比較検討した。

【結果】 平均採卵数：コントロール、50、100、200、400、800mg 群でそれぞれ 16.4、24.0、9.3、0.7、0.4、0.5 個であり、200mg から低下傾向にあり、400 および 800mg 群で有意に低かった。受精率：70.9 (137/193)、79.1 (53/67)、85.7 (48/56)、100 (2/2)、100 (4/4)、100% (2/2) であり、投与量に従い採卵数は減るものの、採卵された卵子は受精能を有していた。胚盤胞到達率：90.5 (124/137)、60.4 (32/53)、93.8 (45/48)、100 (2/2)、75 (3/4)、50% (1/2) であった。400mg 以上投与で低下傾向が認められた。

【まとめ】 CPA 一回腹腔内投与することで、マウスは受精能および胚発生能を調査するモデルになりえることが判明した。

2. 若年発症子宮内膜癌の病態におけるプロラクチンの臨床的意義

熊本大学 大学院生命科学研究部 産科婦人科学

○齋藤 文誉、田代 浩徳、松尾 勇児、
内野貴久子、岡村 佳則、本田 律生、
大場 隆、片渕 秀隆

【目的】 子宮内膜癌では、肥満や糖尿病などの生活習慣病が引き起こす内分泌学的変化が発癌に関与していると考えられている。この内分泌学的環境の解析にあたり、われわれは若年発症子宮内膜癌症例の中に血中プロラクチン (PRL) 値が高値を示す症例が存在することに注目し、今回、その臨床的意義を明らかにすることを目的に検討を行った。

【方法】 2000 年から 2008 年に当施設で加療した 40 歳未満の 26 例の子宮内膜癌を高 PRL 群と正常 PRL 群に分類し、両群における臨床背景を比較検討した。さらに、高用量メドロキシプロゲステロン (MPA) による妊孕能温存療法を選択した症例の転帰について解析を行った。

【成績】 高 PRL 血症は 10 例に認められ、両群間の比較では、年齢、肥満度、多嚢胞性卵巣症候群 (PCOS) の占める割合に差はみられなかったが、高 PRL 群に進行症例が多い傾向であった。高 PRL 群において MPA 療法を施行したのは 4 例で、その後高 PRL 血症の治療を行うことで、肥満などのリスク因子のない 2 例に妊娠が成立した。一方、正常 PRL 群においては 0 期症例が多くみられ、MPA 療法を施行した 9 例中 8 例は再燃を繰り返し妊娠に至ったのは 1 例のみであった。

【結論】 若年発症子宮内膜癌の発生と進展への PRL の関与が示唆された。また、妊娠成立と再燃予防の観点からは、高 PRL 血症が認められても肥満などのリスク因子を有さない場合は、良好な転帰が期待できることが考えられた。

3. 当科における子宮内膜症治療の現状

福岡大学 医学部 産科婦人科

○城田 京子、中山 直美、宮本 新吾

【目的】 2008年に子宮内膜症の内分泌(薬物)療法の選択肢が増え、術後でも卵巣子宮内膜症性嚢胞(EC)再発予防のための薬物療法が注目されている。つまり子宮内膜症の管理法が大きな転換期にある今、本研究では当科における子宮内膜症治療の現状を検討した。

【方法】 2008年1月から2010年12月までの3年間で、当科にて、子宮内膜症と診断された症例(318名)の、年齢、CA125陽性例(35U/ml以上)、薬物療法の内容、手術・薬物療法併用の内容、不妊症例の転帰を検討した。

【結果】 対象の平均年齢は36歳、CA125陽性例は44%であった。治療法では薬物療法のみ(M群)が176名(55%)、手術療法(O群)が116名(37%)、経過観察が26名(8%)であった。M群では、EP配合剤(EP剤)が60%、GnRHaが24%、黄体ホルモン製剤(P剤)が16%に用いられ、O群では薬物療法併用例が34%で、その内訳はEP剤25%、GnRHa 4%、P剤4%であった。O群の不妊症例(44名)で転帰を追跡できた31名のうち19名が妊娠した。期間中にECの再発による再手術例はなかった。

【結論】 手術併用も含め薬物療法ではEP剤が60%を超え、近年子宮内膜症の薬物療法が大きく転換したことが示された。手術を40%に施行し、再発例はなく、平均的術後妊娠率が確保されたが、今後は卵巣機能不全の発生を検討する必要がある。

4. 子宮内膜症症例における血中 AMH (抗ミュラー管ホルモン) 値の検討

蔵本ウイメンズクリニック

○榑 美緒、鈴木 さよ、吉岡 尚美、大塚未砂子、蔵本 武志

【目的】 子宮内膜症症例における卵巣手術既往とチョコレート嚢胞の血中 AMH 値に及ぼす影響を検討した。

【対象・方法】 2009年4月～2010年9月にインフォームドコンセントを得て AMH を測定した39歳以下の ART 患者で、A 群：子宮内膜症既往がある92人(平均年齢35.5歳)と B 群：子宮内膜症既往がない362人(34.7歳)の AMH を比較し、A 群においては①卵巣手術既往の有無、②卵巣手術は片側か両側か、③AMH 測定時点でのチョコレート嚢胞の有無について検討を行った。

【結果】 A 群、B 群の平均 AMH は14.3pM と22.7pM で、A 群で有意に低値であった($p < 0.05$)。A 群の①卵巣チョコレート嚢胞摘出術既往あり群41人(35.3歳)と手術既往なし群51人(35.7歳)の平均 AMH は10.7pM と17.9pM で、手術既往あり群で有意に低値であった($p < 0.01$)。②手術既往あり群のうち、片側手術既往19人(35.7歳)と両側手術既往22人(35.0歳)の平均 AMH は11.5pM と10.1pM であった。③AMH 測定時点でエコー上チョコレート嚢胞が認められた47人(35.1歳)の手術既往あり群17人(34.6歳)と手術既往なし群30人(35.3歳)に分けた平均 AMH は13.5pM と20.0pM となり、有意差は認めなかった。また、B 群と手術既往なしでチョコレート嚢胞を有する群の AMH にも有意差は認めなかった。

【考察】 子宮内膜症症例では血中 AMH 値の有意な低下を認めたが、チョコレート嚢胞を有するだけでは AMH に大きな影響はなく、低下の要因は主に卵巣手術によるものと思われた。

5. 卵巣手術と喫煙が血中抗ミュラー管ホルモン (AMH) 値に及ぼす影響について

蔵本ウイメンズクリニック

○大塚未砂子、吉岡 尚美、榑 美緒、
鈴木 さよ、村上貴美子、村上 正夫、
江頭 昭義、蔵本 武志

【目的】 AMH 値に影響すると言われている卵巣手術と喫煙の影響について検討した。

【対象・方法】 2009年8月～2010年9月に AMH 値を測定した1145例を対象とした。卵巣手術歴、喫煙習慣の有無で分けそれぞれについて AMH 値を比較し、さらに29歳以下、30～34歳、35～39歳、40歳以上の年齢群に分け AMH 値を比較した。

【結果】 非手術群 (953例、平均年齢36.2歳) の平均 AMH 値は23.4pM、手術群 (31例、平均年齢35.7歳) の平均 AMH 値は16.1pM で有意差を認めた ($p < 0.001$)。また全ての年齢群で手術群が有意に低値となった ($p < 0.05$)。非喫煙群 (1026例、平均年齢36.2歳) と喫煙群 (31例、平均年齢35.7歳) の平均 AMH 値はそれぞれ22.9pM、18.5pM で有意差を認めなかった。また、全ての年齢群で AMH 値に有意差を認めなかったが30歳以上の喫煙群で低下する傾向を認めた。

【考察】 卵巣手術歴は AMH 値に影響するため手術歴のある症例は AMH 値を測定し卵巣予備能を評価した上で治療方針を決定すべきと考えられた。喫煙習慣については有意差を認めなかったが AMH 値が低下する傾向を認めた。有意差が出なかったのは過去に喫煙歴があるが現在は禁煙している症例が非喫煙群に入っている可能性があること、喫煙群にも喫煙本数や喫煙期間にばらつきがある可能性があることが理由と考えられた。

6. 腹壁皮下組織に認めた異所性巨大筋腫の一例

鹿児島大学 医学部 産科婦人科

○築詰伸太郎、山崎 英樹、松尾 隆志、
沖 利通、吉永 光裕、堂地 勉

腹腔鏡のモルセラータによる“Parasitic myoma”の報告が散見される。しかし、開腹術後の腹腔外組織への異所性筋腫の報告は少ない。今回、腹直筋膜外皮下に発生した巨大な筋腫を経験したので報告する。

患者は、46歳、2経産。23歳と27歳で筋腫核出術施行。29歳と32歳時で縦切開にて帝王切を施行。6年前に皮下の腫瘤感を自覚し皮膚科受診。穿刺吸引細胞診で悪性を認めなかった。以後、月経時に同部位の疼痛を認めていた。7か月前に不正性器出血で某医受診。画像にて径18cmの子宮体部筋腫を認め、GnRHaの投与を開始した。1か月前、大量の性器出血を認め輸血施行。さらに、発熱及び炎症反応の上昇を認め子宮内感染が疑われ当院紹介となる。MRI では子宮後壁に18cmの筋層内筋腫を認め、腹部正中皮下に多彩な信号の充実性及び嚢胞様構造を認め異所性内膜症などが疑われた。開腹術を施行し皮下に12cmの境界明瞭で表面平滑な硬い腫瘤を認め周囲脂肪組織への栄養血管を認めたが腹直筋膜は保たれており、子宮体部筋腫との連続性はなかった。皮下腫瘤の断面は白色充実性で、水腫様内容物も含んでいた。病理組織は硝子化、粘液変性を伴う平滑筋腫であった。

本症例は、以前の術創に一致しており皮下に遺残した筋腫がその部位に寄生し長い時間を経て増大したものと考えられる。腹腔鏡に限らず、手術既往がある腫瘤形成では医原性の子宮外筋腫も念頭に入れておく必要がある。

7. 子宮内視鏡による慢性子宮内膜炎の診断と治療

ALBA OKINAWA CLINIC

○寺田 陽子、佐久本哲郎、徳永 季子、
徳永 義光

機能性不妊症の中には着床障害が関与する場合があります。慢性子宮内膜炎は子宮腔内の免疫環境を変化させ、着床に影響を及ぼしていると考えられる。我々は増殖期の子宮内視鏡観察を行い、慢性子宮内膜炎の診断基準を設け、その治療を行うことにより妊娠に至った症例をえたので報告する。慢性子宮内膜炎の診断には、1)子宮腔内透明度の低下、2)微小ポリープの存在、3)血管の易出血性をもって行った。

【症例1】33才 1回経産、第2子希望して1年。HSGにて両側卵管通過性良好、PCT正常なため4カ月タイミング療法おこなうも妊娠に至らず。子宮内視鏡にて多数の微小ポリープ・血管の易出血を認め、慢性子宮内膜炎と診断。クラリスロマイシン14日間投与後、2周期して子宮内視鏡再検し、炎症の改善を確認。治療後3周期目、自然妊娠した。

【症例2】35才 海外にて顕微授精後妊娠も9週にて流産。帰国後前医にて顕微授精後、4回の胚盤胞移植受けるも妊娠に至らず、当院受診。子宮内視鏡にて子宮腔内透明度が非常に低下しており、慢性子宮内膜炎と診断。顕微授精施行後全胚凍結。月経血培養にてC群連鎖球菌を認めたため、凍結胚移植時に感受性のあるアンピシリンを8日間投与した。初回の凍結胚移植にて妊娠した。

機能性不妊症や子宮内操作の既往がある症例には、積極的に子宮内視鏡を行い、慢性子宮内膜炎の鑑別を行うことは有用であると考えられる。

8. 内視鏡下筋腫核出術を施行した不妊症例の検討

済生会長崎病院 婦人科

○松本亜由美、下村 友子、松本加奈子、
中山 大介、藤下 晃

【目的】子宮筋腫合併不妊症例に対して、内視鏡下手術を施行した症例の術式および治療成績などを検討した。

【対象および方法】2005年4月から2010年10月までに取り扱った不妊症のなかで、筋腫合併不妊症例を対象とした。

【結果】同期間に内視鏡下手術を施行した不妊症は230例であり、このうち筋腫合併不妊症は97例(42%)を占めていた。腹腔鏡下筋腫核出術(LM)は56例、腹腔鏡補助下筋腫核出術(LAM)は20例、子宮鏡下筋腫摘除術(TCR)は21例に施行していた。LAMおよびLMの間には、年齢、不妊期間および手術時間には有意差を認めなかったが、LAMではLMに比し、核出筋腫個数が有意に多く、筋腫最大径および最大重量が有意に大きい結果となった。術後半年以上フォローできた症例における妊娠率は全体で52%(30/58例)、LAMは46%(6/13例)、LMでは53%(24/45例)であり両群間に差はなかった。治療法別では自然妊娠が14例(47%)、COH4例(13%)、AIH3例(10%)およびIVF(ICSIを含む)が9例(30%)であった。また、TCR21例中フォローできた症例における妊娠率は38%(6/16例)であった。

【結論】当科における筋腫合併不妊症例に対する内視鏡下手術後の妊娠率は全体で52%となったが、妊娠に影響する因子や累積妊娠率などを再評価する予定である。

第68回日本生殖医学会九州支部会

会 長：詠田 由美

発行所：IVF 詠田クリニック

〒810-0001 福岡県福岡市中央区天神1丁目12-1
日の出福岡6階
TEL 092-735-6655

出 版：^{(株)セカンド}
 株式会社セカンド

〒862-0950 熊本市水前寺4-39-11 ヤマウチビル1F
TEL：096-382-7793 FAX：096-386-2025